

立川第五中学校区

(第九小、大山小、上砂川小、立川第五中)

【小中連携のテーマ】

「小中連携を通じた学習指導の在り方」


～思考力・判断力・表現力を伸ばすための取り組みについて～
～小中学校職員が連携し共通理解と実践を目指す教育課題の検討～

【ねらい】


- ・小中が連携した教育活動を行うことで途切れや隙間のない滑らかな指導体制を目指す。
- ・校区の小中学校職員が連携し、共通理解と実践を目指す教育課題の検討を行う。

【具体的な取組】


1 「確かな力」～学習指導と健康教育等に関すること～

立川第五中学校	毎時間の学習目標を明確にするとともに、学習内容の振り返りやまとめを工夫している。一人1台配布されたタブレットPCや「まなボード」を活用し、生徒が自分の意見や考えをまとめたり、学習集団内で意見を共有したりして、生徒の主体的な学習態度や思考力・判断力・表現力を育てている。	
第九小学校	タブレットPCの活用も含め、どの子にも分かる授業・楽しい授業を目指し、主体的に学ぶ力を育てている。朝の時間の東京ベーシック・ドリルの活用や、火曜日の補習授業、学期末の補充指導日で、基礎・基本の定着を図っている。	
大山小学校	徹底した個別対応型指導。東京ベーシック・ドリル診断シートを基に個人カルテを作成。カルテには個人の不得意分野を明記。家庭学習や補習において不得意分野の克服をねらった課題に取り組ませる。面談時に学習状況の進捗を管理職に報告する。	
上砂川小学校	朝学習の時間に、東京ベーシックドリルやタブレットドリルを活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んでいる。学校独自で年2回の学力調査を実施し、結果を分析し、授業改善に生かしている。中・高学年では、一部教科担任制を実施し、教員の専門性を生かした指導を推進している。タブレットPCを授業内で効果的に活用し、意見交流や教材提示をしている。	


2 「やさしい心」～人権教育、道徳教育、健全教育等に関すること～

立川第五中学校	道徳授業地区公開講座では、立川市文化財保護審議会長の豊泉喜一氏を講師に「郷土を愛し尊重する心の大切さ ～郷土・砂川の歴史から学ぶ～」についてご講演いただいた。写真や資料を基に砂川と立川の歴史を学び、郷土を愛する態度を育むことができた。	
第九小学校	道徳授業地区公開講座で、道徳の授業を公開し、家庭・地域の教育力を引き出す場としながら、三者協働で「心の教育」を行う。道徳の授業をはじめ全教育活動で「考え、議論する」道徳を推進し、道徳的な心情・実践力や意欲・態度を養う。	
大山小学校	内容項目を明確にし、自己の考えを明確にもてるようにするための工夫として『話し合い活動』を中心に据える。話し合いの方法、話し合いの人数・発問の工夫等により考え・議論する道徳を実践している。	
上砂川小学校	「考え、議論する道徳」の授業を推進し、道徳授業地区公開講座では、地域・保護者の理解を深めるため、教員、保護者、学校運営協議会委員で授業内容について意見交換を実施する。また、道徳推進教師が「道徳だより」を作成し、保護者への配布やHPへの掲載を行っている。	

3 「個を輝かせ」～特別支援教育、キャリア教育、特色ある学級づくり等に関すること～

立川第五中学校	スクールカウンセラーや民生児童委員、立川市教育相談員等と連携・協力し、多面的・多角的な生徒理解に努め、個に応じた支援を通し、自己肯定感を高めることに取り組んでいる。全教師がユニバーサルデザインを実践し、学習環境を整えている。
第九小学校	くわのみスタンダードを活用し、自らすすんで考え自信をもって行動する、心情豊かな児童を育成する。キラリと協働で通常級の児童に、理解教育や交流学习を積極的に行い相互理解を図っている。立川夢・未来ノートの活用の工夫を図っている。 
大山小学校	『全児童を全職員で育む。』を合言葉に、日常的に児童の状況を共有している。配慮を必要とする児童については、ケース会議を開き、短期的取組と中・長期的取組を明確にして全校一致した指導を行っている。
上砂川小学校	定期的実施する校内委員会における児童の情報共有やキラリ担当教員による学級の授業観察の報告を行い、個に応じた指導の実践に生かしている。キャリア教育として、本年度も継続して年間3回の立川夢・未来ノートを活用した授業を実施する。

4 「社会のために」～社会性の育成、生き方を考える力・実践力の育成、開かれた学校づくり等に関すること～

立川第五中学校	「砂川楽」として各学年で地域の方々を講師に招き、文化交流や各種講習会を通して砂川の文化や特色を学び、将来の地域貢献に係る意識を育てている。
第九小学校	地域の人材や特色を生かした立川市民科の授業や、みそ作り・和太鼓クラブなど地域の方の協力を得ながら、地域の一員であることを自覚し、社会の一員としての意識を高めている。毎日、HPで児童の活躍を掲載し、周知を図る。
大山小学校	立川市民科の実践を積み重ね、地域との関係を強化している。1年生の「きれいに咲いてね私の花」でお世話になった地域の方等に3年生の「カブあげ隊」で育てたカブをお礼の言葉を添えて渡す等、学年をまたいだ活動も実践している。
上砂川小学校	立川市民科の実践を充実させ、全校で地域を題材にした「玉川上水学」を実施している。低学年では生活科を通して地域の自然に触れ、中・高学年では総合的学習の時間で玉川上水を教材化した授業を行っている。学習には、ゲストティーチャーを積極的に活用し、「本物から学ぶ」ことを通して問題発見・解決能力が身に付くようにしている。 

【小中連携研修会の取組】

各校においてオンラインで部会ごとの情報共有

(1) 実施日時 8月30日(月)

(2) 内容 部会テーマに即した各校の取組発表・協議

(3) 部会テーマ

- ・新学習指導要領完全実施に伴う評価・評定の留意点
- ・外国語指導の課題と解決への工夫
- ・生活指導の共通理解
- ・多様な個性を有する児童・生徒への指導の工夫と効果的な指導の共有
- ・保護者との信頼関係の構築
- ・地域との連携の在り方
- ・校務PC活用上の課題
- ・タブレットPCを利用した指導の工夫

(4) 研修会をふり返って

- ・各校の取組に関する情報共有を行うことで、校区の小中学校職員が連携し、共通理解と実践を目指す教育課題の検討を行うことができた。五中校区の子どもたちのよりよい成長のためお互いに協力し合い、小中連携の重要性を考える機会となった。